

口腔ケアの取り組み

～おいしく食べる楽しみを継続するために～

まず、はじめに、入居者の口腔の状態をチェック
(79名に実施)

	有	無	合計
義歯	50名 (63.3%)	29名 (36.7%)	79名 (100%)
自歯	28名 (63.3%)	51名 (36.7%)	79名 (100%)
残根	26名 (63.3%)	53名 (36.7%)	79名 (100%)
水分でのむせ	27名 (63.3%)		
誤嚥性肺炎既往	10名 (12.7%)		
自力摂取	可53名 (68.4%)	一部8名 (10.1%)	不可17名 (21.5%)

入居者口腔チェックの結果

- 自歯のみで摂取しており、口腔ケアが十分でなくフォローが必要な方(1名)。
- 義歯を使用しているが、口臭、舌苔があり口腔ケアが不十分な方(2名)。
- 嚥下機能が低下しており誤嚥性肺炎を起こす可能性の高い方(2名)。
- 胃瘻を造設しており、口腔からの摂取はしていないが、口腔ケアが不十分で、口腔の状態に問題のある方(1名)。

以上の理由から 6名の方にさらにアセスメントを行い目標・計画を立てケアスタッフとともに実行していった。

<<事例>>

- 「口腔ケアを通じて脳梗塞後遺症による摂食障害の改善に努めた事例」

氏名：O. Y様 年齢：86歳 性別：女性

既往歴：脳梗塞・心房細動・高血圧・咽頭ポリープ
胃瘻造設(平成20年)

1. 口腔内の状況チェック

- 残歯は多数あるが上顎の歯は殆ど差し歯であり歯茎との隙間が目立ち出血・口臭・歯石がみられた。
- また、平成20年脳梗塞による摂食障害のため胃瘻を造設されており、約2年間口腔からの摂取はされていなく、そのため唾液の分泌低下がみられていた。

2. 口腔機能向上サービスの管理指導計画書作成及び実施内容

- (目標) 口腔内の乾燥を防ぐとともに口臭の低下に努める。
- (実施計画)
 - ①出血、口臭、歯石が目立つため歯科医による口腔清掃の実施・指導をうける情報提供
 - ②口腔ケアを徹底するため、口腔ケアチェック表を作成し継続したケアを行い実施確認をする。
 - ③アセスメント・モニタリング・総合評価を行う。

• (実施内容)

- ①歯科医による歯石除去、ブラッシング指導。
口腔リハビリ・唾液腺マッサージの実施
- ②毎食前のアイスマッサージ、毎食後のテウスエッテによる口腔ケアの実施。口腔ケア実施表の記入。
- ③再アセスメント ⇒ パイナップルによるアイスマッサージの開始
- ④口臭低下・唾液分泌量の増加・発語の増加
⇒ 口腔摂取開始検討

⑤嚥下機能のチェック⇒頸部聴診法・喉頭挙上テスト
氷碎片飲み込みテストの実施

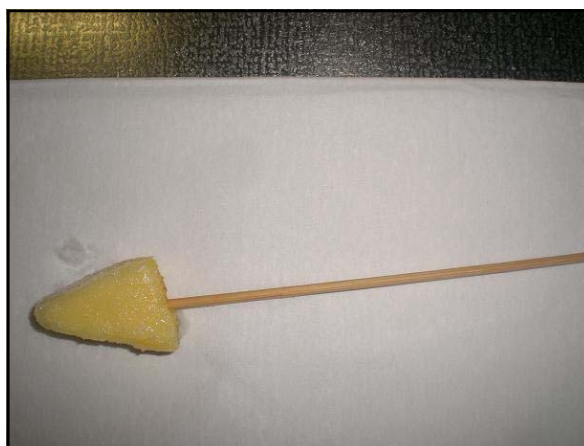
⑥口腔摂取開始⇒医師の立会いのもと、嚥下訓練
ゼリーの摂取

2年ぶりに口腔より摂取してご本人の言葉

『おいしい、おいしい、食べたかった！！』

ご家族の言葉（ご本人が食べている様子を実際にみて）

『もう口から食べられないと思っていたのでとても嬉しい！！』





3. 考察・まとめ

- 今回、6名の方を中心に口腔機能向上にむけて計画を作成しアセスメントを行ってきたが、6名とも「むせが減った。」「口の渇きがへった。」「口臭が減った。」「食事がよりおいしくなった。」などの効果が見られた。これは、口腔の状態を細かくチェックし、アセスメントを行い、利用者に適した方法でのケアが実施できたためと考える。その結果、明らかな改善点が見られ、口腔機能の向上につながった。さらに、口腔ケアを行うことで表情が変わり、笑顔もとり戻すことができた。スタッフにとっても口腔ケアの大切さを改めて知る機会となり今後も継続していく重要性を実感できた。

また、経管栄養を施行されている方でも、口腔ケアを適切に行い、嚥下機能が回復され、無理なく自然な形で「口からおいしく食べる」という「人間本来の喜び」を安全に継続していきたい。今後も、カンファレンスを通じて口腔ケアの必要性や知識を周知し継続した口腔ケアを定着させていきたい。